

令和6年度



園だより



文京区立根津幼稚園

体験からいのちを感じて

主任 今村 久美子

梅雨入り前のさわやかな青空の下、子どもたちは緑がたくさんの園庭で遊びを楽しんでいます。

幼稚園では、モルモットやカメ等を子どもたちが日常的に世話をして、関わっています。また、園庭ではアゲハチョウやダンゴムシ等、たくさんの虫たちにも出会います。ダンゴムシを見付けることに夢中の4歳児たちがいます。「ここらへんにいるんだよ」と自分なりの経験でダンゴムシが居そうな場所の見当を付けて探すようになってきました。保育者は学級に“ダンゴムシハウス”（大きな飼育ケースに土や落ち葉を入れたもの）を準備し、さよならしたくないダンゴムシは、しばらく学級で飼うことにしています。捕まえたダンゴムシを“ダンゴムシハウス”に入れて、友達と一緒に眺め、「丸まってるダンゴムシさんが、また動いた！」等と、よく見て気付いたことをそれぞれ言葉にしていました。

また、園庭のプランターや畑に、各学年ごとに、野菜や花等の種をまいたり、苗を植えたりしました。3歳児は「お花さん、おはよう！」と話し掛けながら、先生と一緒に小さなカップを使って水をやって「オジギソウがあいさつしたよ」と笑顔を見せています。5歳児は、当番制で植えた野菜の苗に水やりをしながら、「前の年長さんみたいにおいもほりできるかな」と先を見通して生長を楽しみにしています。5月にはソラマメやイチゴ、サヤエンドウ等を収穫し、美味しくいただく機会もありました。

このように、子どもたちが小さいいのちに関心をもつ姿や、毎日の関わりの中で変容に気付いたり愛着をもったりする姿が、幼稚園ではたくさん見られています。文京区教育委員会では、5月と12月を「いのちと人権を考える月間」と位置付け、子どもたちが自尊感情や自己肯定感を高め、自分や他者の命や人権を大切にしようとする態度を育てる取り組みの充実を図っています。今後も幼稚園では、身近な動植物に関わる機会を大切に、子どもたちが直接体験を通して生き物の「いのち」を感じ、大切にすることを育んでいくことができるようにしていきたいと思えます。



3歳児「お花にお水あげるよ」



4歳児「ダンゴムシ見付けた！」



5歳児 収穫したソラマメのさやを開いて「そらまめくんのベッドだ！」